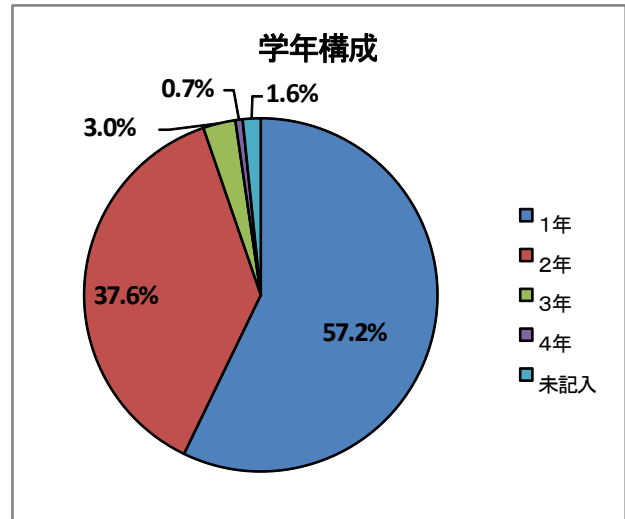
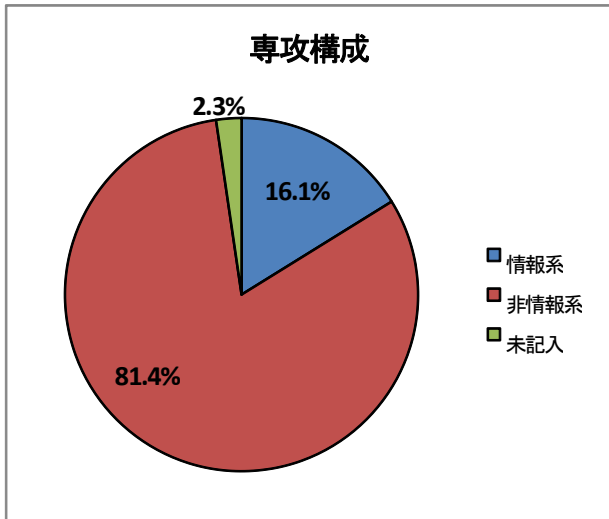


調査テーマ	大学生の携帯情報端末の利用に関する調査 (2012/01/15 作成)		
回答期間	2011/11/15～11/24		
回収件数	607		
実施方式	Web アンケート (記名式)		
実施対象	近畿大学経営学部 情報倫理およびコンピュータ概論Ⅱ受講者		
調査実施者	近畿大学経営学部 准教授 梶 大輔 (経営情報・情報倫理)		

○回答者の属性



・専攻

情報系	98人	16.1%
非情報系	494人	81.4%
未記入	14人	2.3%

※情報系とは「経営学科 IT ビジネスコース選択」もしくは「情報系ゼミ専攻」のいずれかであることを指す。

・学年

1年	347人	57.2%
2年	228人	37.6%
3年	18人	3.0%
4年	4人	0.7%
未記入	10人	1.6%

○総括

現在大学に在籍している学生は、ほぼ平成生まれの「デジタルネイティブ世代」である。片時も携帯電話を手放さず、あらゆる事を携帯電話で行うというのがデジタルネイティブ世代のイメージであるが、しかし、彼らの携帯端末利用事情を調査した結果、意外にも昭和生まれの「デジタルイミгранト世代」と大差のない利用状況であることが判明した。

・所有状況

一大学生の携帯電話所有率は 78.6%、スマートフォンの所有率は 56.4%。全学生が携帯電話かスマートフォン、もしくはその両方を所有している。ただし、携帯電話所有者の 20%は携帯電話を使用しておらず、全体の 18.8%が携帯電話は持っておらず、不要であると回答。

- 所有率が85.5%と最も高い携帯情報端末は電子辞書。
- タブレットPCを所有する学生は6.9%とごく少数派。
- 情報端末の所有率は1年生よりも2年生以上の方が高く、就職活動を意識したIT化が進んでいると推測される。

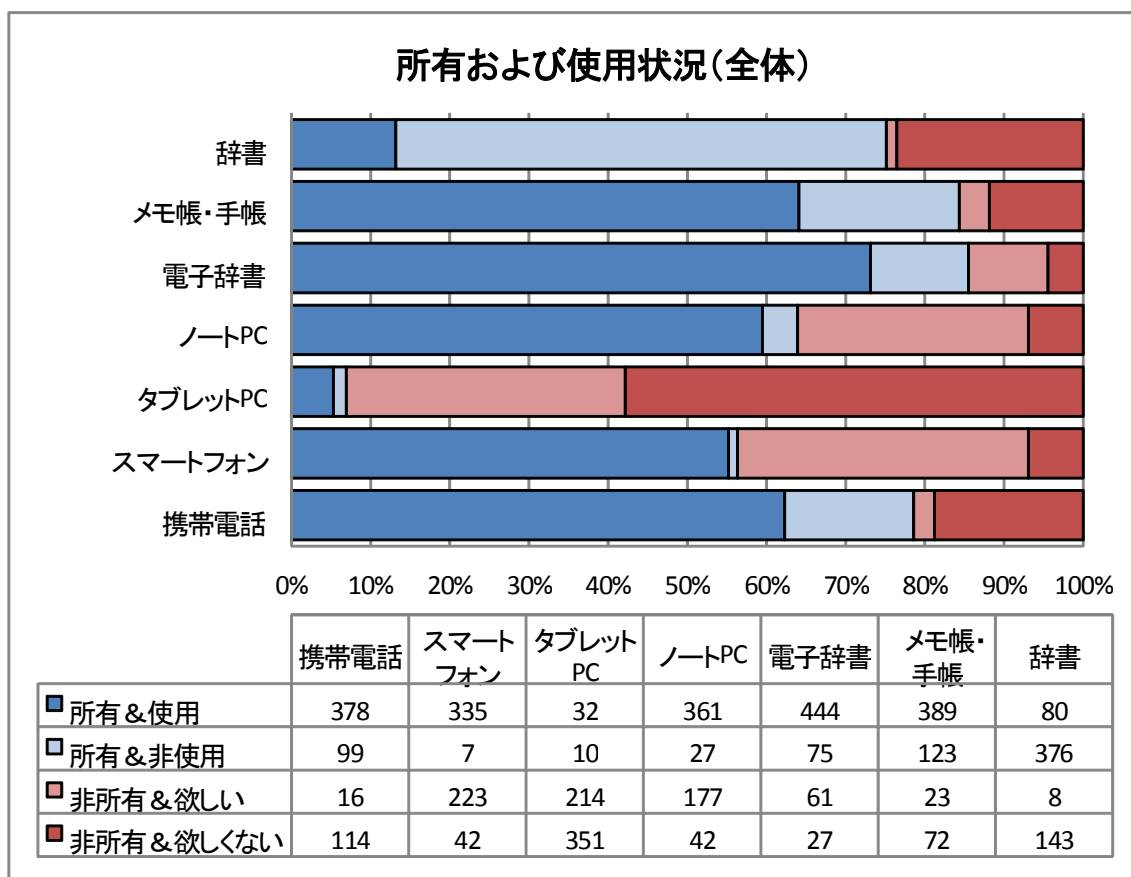
・利用に関するもの

- 総合的に見ると大学生の携帯電話・スマートフォン利用シーンは「デジタルネイティブ」としてはやや控えめな印象。
- 携帯電話やスマートフォンでよく用いる機能は「通話・メール」「ブラウジング」「メディア視聴」。逆に利用しない機能は「電子決済」「ワンセグ」等、ガラパゴス仕様の機能はほとんど利用されていない。
- ノートPCでのメール使用率は30%未満、大多数の学生は携帯電話やスマートフォンでコミュニケーションを取っている。

・類似する端末への意識

- 72.6%の学生がスマートフォンさえあれば携帯電話は不要と回答。
- 83.5%の学生がスマートフォンとタブレットPCの両方が必要と回答。
- 大学生の意識は（携帯電話≦スマートフォン）≠（タブレットPC≦ノートPC）という位置づけであると考えられる。
- 紙媒体と情報端末の位置づけは（紙のメモ≒情報端末）、（紙の辞書≦情報端末）。

○所有および使用状況について



・携帯電話およびスマートフォン

携帯電話の所有率は78.6%、スマートフォンの所有率は56.4%。すべての学生が携帯電話もしくはスマートフォンのいずれかを所有。携帯電話非所有者の多くが携帯電話は不要であると感じているのに対し、スマートフォン非所有者の約85%はスマートフォンを欲しいと考えている。

また、所有しながら使用していないと回答した学生数についてはスマートフォンが1.2%とごく少数であるのに対し、携帯電話は16.3%と大きく差が開いた。この事から大学生の間では携帯電話からスマートフォンへの移行が進行しており、今後もこの傾向が続くと考えられる。

・タブレットPCおよびノートPC

タブレットPCの所有率は6.9%ときわめて低く、非所有かつ不要であると感じている学生が過半数(57.8%)を占めた。一方でノートPCの所有率は63.9%と高く、また非所有の学生についても多くが欲しいと感じている。

この事から、学生はコンピュータの利用自体については積極的であるが、タブレットPCは使途が不明な未知のデバイスであるため興味が薄いのではないかと推測される。

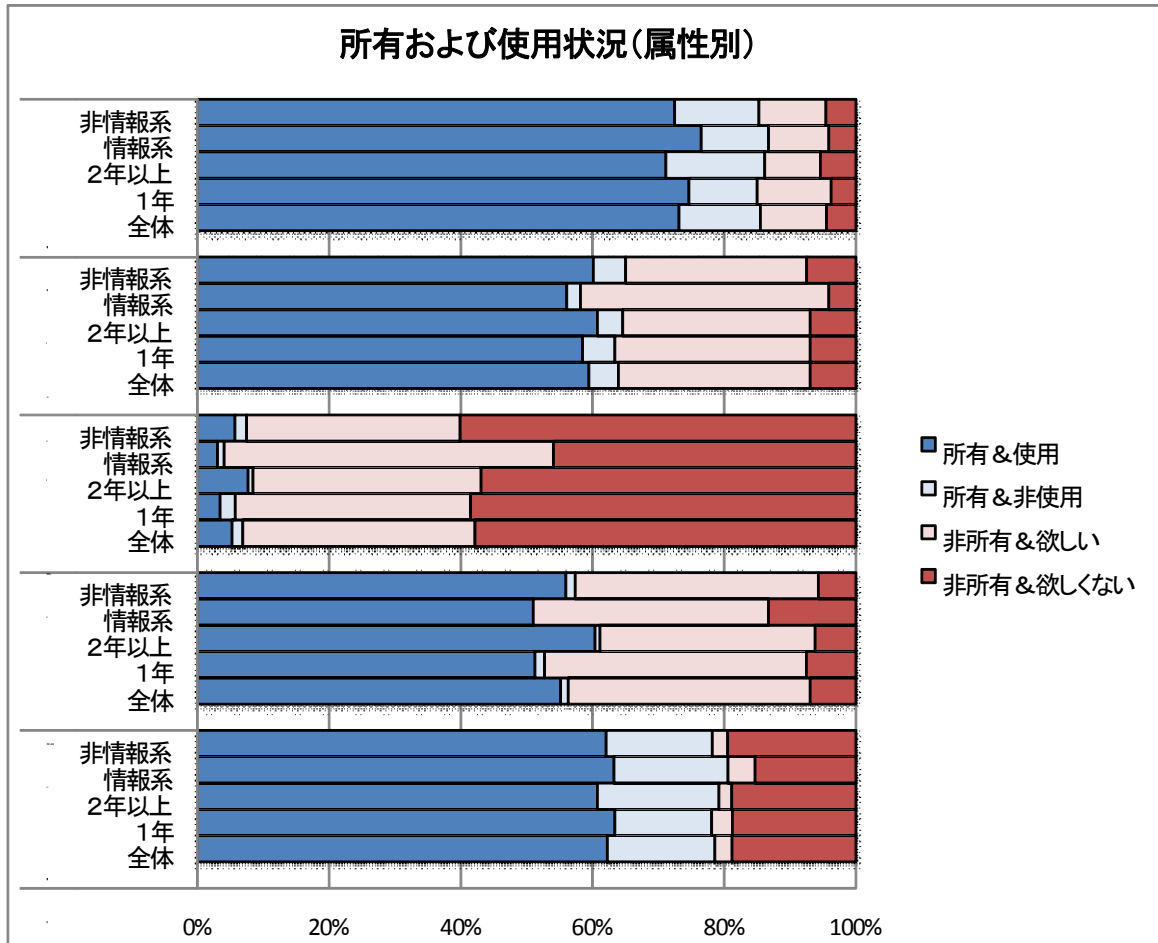
・辞書、メモ帳、電子辞書

電子辞書の所有率は85.5%であり、今回調査した携帯情報端末の中で最も高い所有率であった。手帳やスケジュール帳等の紙のメモ帳の所有率は84.4%、紙の辞書の所有率は75.1%であった。

紙の辞書については所有者の80%以上が使用していないと回答しており、日常の調べ物については電子辞書もしくは携帯電話等での検索が主流であることが伺える。

なお、使用しないにもかかわらず多くの学生が紙の辞書を所有している理由は、期末試験等へ持ち込みが可能な「辞書」が紙の辞書のみである事によるものであると推測される。

・学生属性別の状況



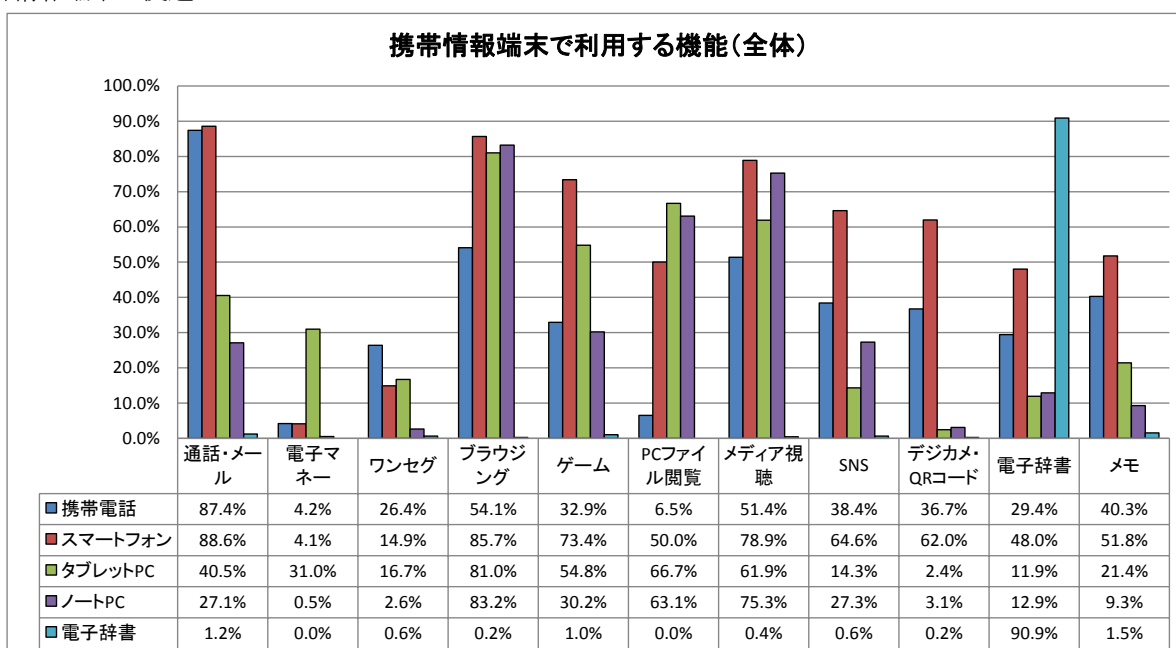
スマートフォンの所有率は1年生（52.7%）よりも2年生以上の学生（61.2%）の方が高く、また情報系の学生（51.0%）よりも非情報系の学生（57.4%）の所有率が高い結果となった。

タブレットPC（1年生 5.8%/2年生以上 8.5%、情報系 4.1%/非情報系 7.5%）、ノートPC（1年生 63.4%/2年生以上 64.6%、情報系 58.2%/非情報系 65.0%）についても同様の傾向が見られる。携帯電話についてはスマートフォン程の大きな差違はみられないものの、傾向としては同様であった。電子辞書は他の携帯情報端末とは傾向が異なり、情報系の学生の所有率（86.7%）が非情報系の学生の所有率（85.3%）を上回っている。

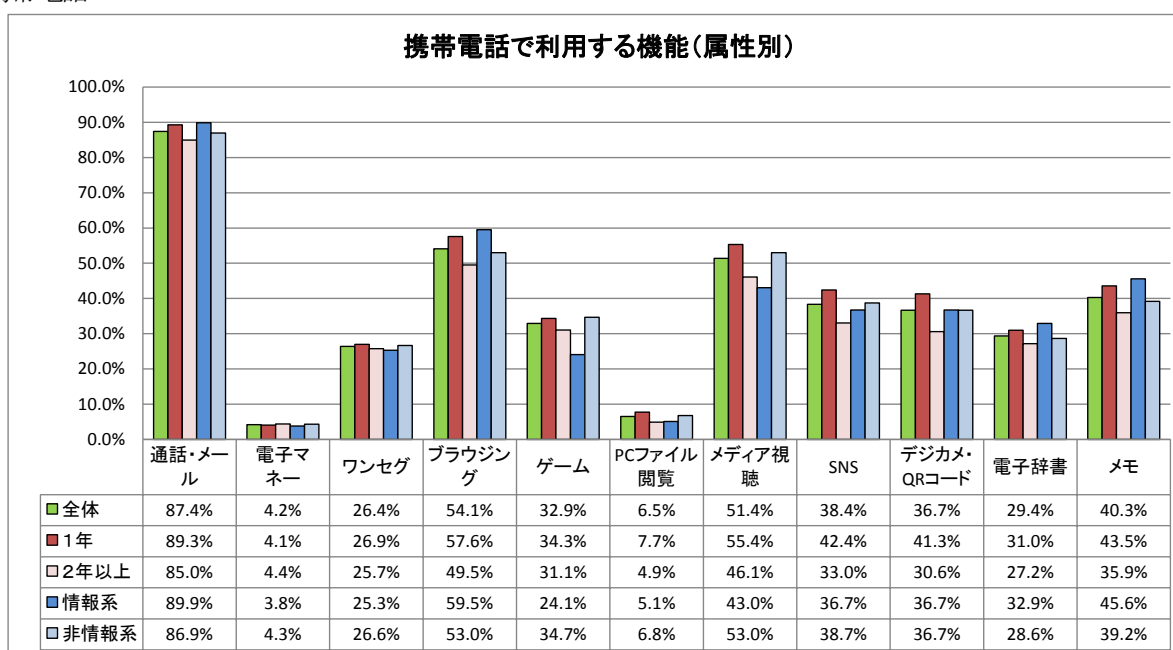
上級学年の学生が1年生よりも携帯情報端末を多く所有している理由については、就職活動で必要であるという認識によるものであろうと推測される。

また、多くの情報端末において非情報系の学生の所有率が情報系の学生の所有率を上回っている理由については不明であるが、今回調査にはデスクトップPCを調査項目として含めていないため、情報系の学生がデスクトップPCを主に使用している場合、相対的に携帯情報端末の所有率が低下している可能性が考えられる。

○各情報端末の用途について



・携帯電話



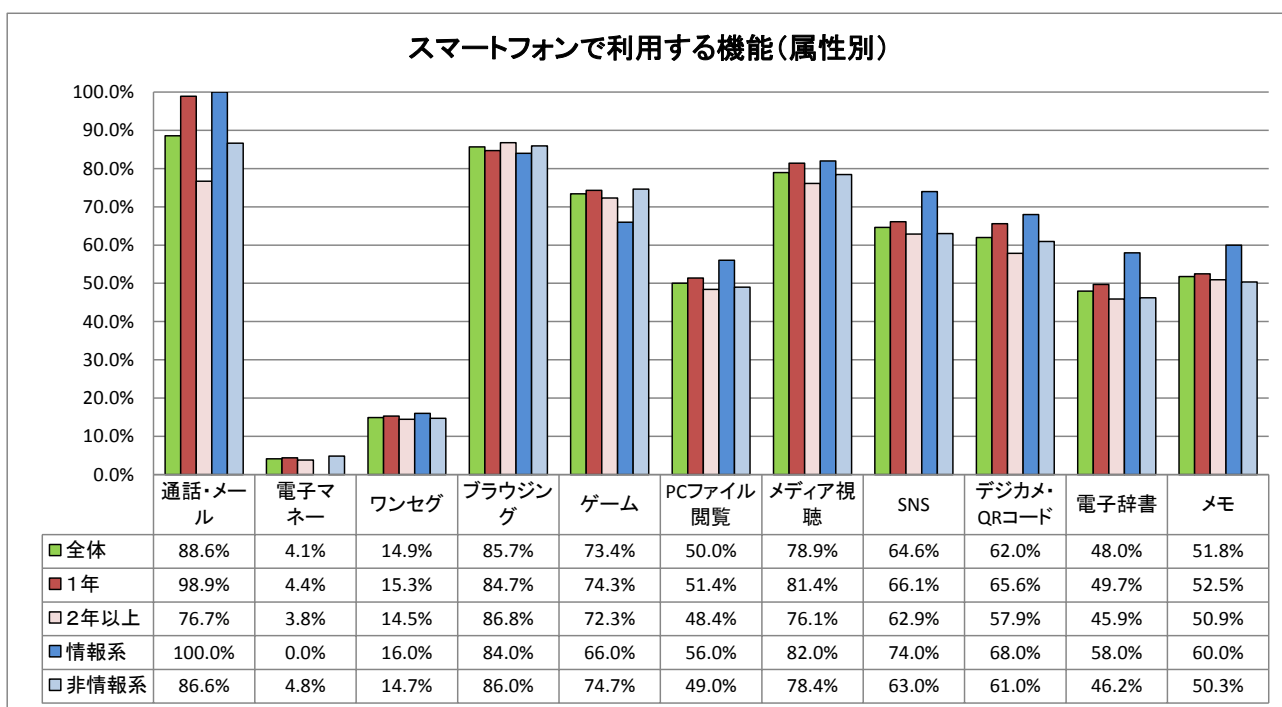
携帯電話でよく使われる機能としては、通話およびメール（87.4%）がもっとも多く、次いでブラウジング（54.1%）、動画や音楽、画像閲覧などのメディア視聴（51.4%）と続く。逆に携帯電話で利用されない機能としては、おサイフケータイ等の電子マネー機能（4.2%）がもっとも低く、次いでPCファイルの閲覧（6.5%）、ワンセグ視聴（26.4%）の利用率が低い。

通話およびメール以外の機能については多いものでも50%程度であることから、学生の多くは携帯電話の基本機能である通話およびメールのための端末として利用しており、デジタルネイティブの一般的なイメージである「何事も携帯電話で済ませてしまう若者」はむしろ少数派のようである。

なお、特に利用率の低い電子マネーについては、調査対象の学生が利用している校舎にも携帯電話で決済可能な自動販売機が設置されていることから、利用環境の問題ではなく利用する意識そのものが低いと考えられる。

学生属性別に見た場合、1年生は上級学年の学生よりも、情報系の学生は非情報系の学生よりも携帯電話の機能を多く利用している。1年生および情報系の学生はスマートフォンの所有率が対になる属性の学生よりも低いため、相対的に携帯電話を利用せざるを得ない状況であると考えられる。

・スマートフォン



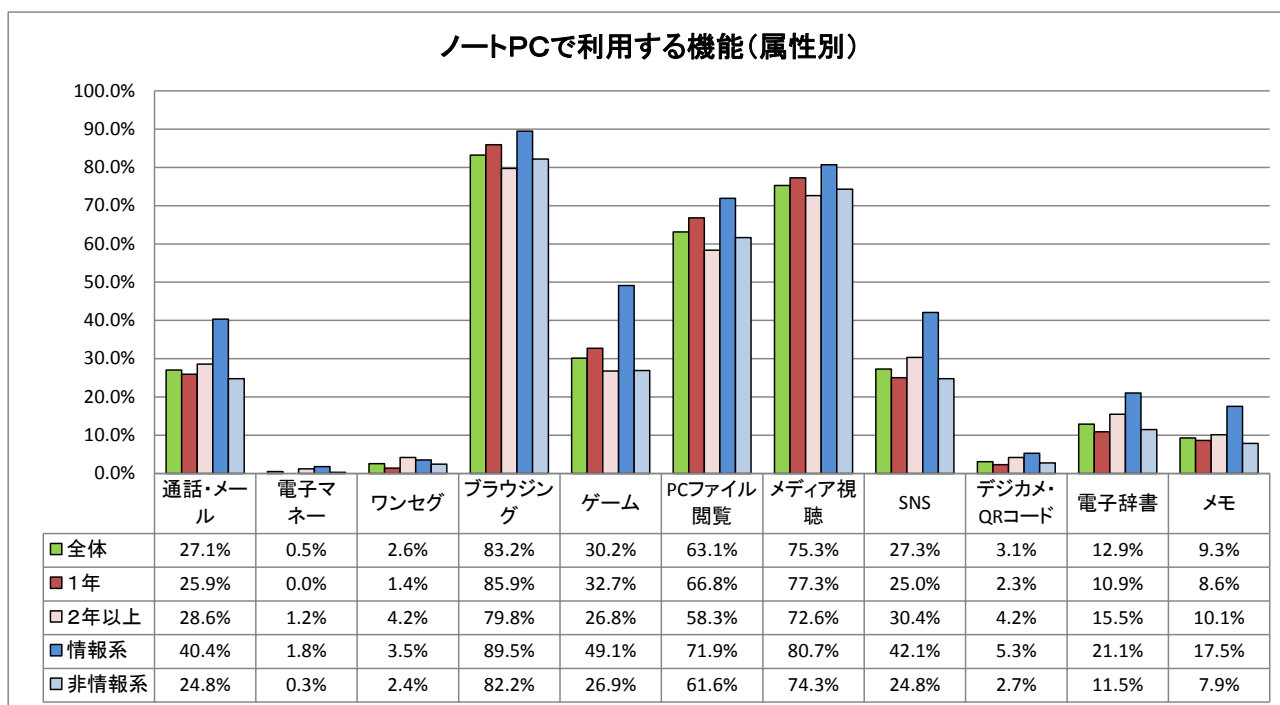
スマートフォンでよく使われる機能としては通話およびメール（88.6%）が最も多く、次いでブラウジング（85.7%）、メディア視聴（78.9%）と続く。逆にスマートフォンで利用されない機能としては電子マネー機能（4.1%）がもっとも低く、ワンセグ視聴（14.9%）の利用率が低い。

携帯電話と異なり、多くの機能の利用率が50%以上であるところから、学生はスマートフォンの機能を駆使している事が伺える。この事から、デジタルネイティブの一般的なイメージを体現している学生の多くは携帯電話ではなくスマートフォンを利用していると考えられる。

また、この結果からわかるように、携帯電話メーカーが積極的に市場投入している日本独自の携帯電話機能を盛り込んだ「ガラパゴススマートフォン」は、大学生にはあまり需要がないものであるという点も興味深い。

学生属性別に見た場合、1年生および情報系の学生がスマートフォンの機能を駆使している結果となった。特に情報系の学生は多くの項目で非情報系の学生の利用率を大きく上回っており、スマートフォン自体の所有率こそ低いものの、所有している学生は一般の学生よりもスマートフォンの機能を使いこなしている事が伺える。

・ノートPC



ノートPCでよく使われる機能としてはブラウジング（83.2%）が最も多く、次いでメディア視聴（75.3%）、PCファイル閲覧（63.1%）と続く。逆にノートPCで利用されない機能としては、多くの機種で機能が実装されていない電子マネー、ワンセグ、デジカメを除いた場合、メモ（9.3%）、電子辞書（12.9%）、メール（27.1%）、SNS（27.3%）等の利用率が低い。

特記すべき項目は電子メールの利用率が30%以下（情報系の学生のみ40.4%）である点であろう。大学生にとってメールとは携帯電話やスマートフォンによるものであり、コンピュータでのメール送信は少数派であることがこの結果から伺える。

学生属性別に見た場合、ほぼすべての項目で情報系の学生が非情報系の学生の利用率を大きく上回っている。この傾向から、情報系の学生は作業の多くをコンピュータ上で行っていることが伺え、今回の調査対象外であるデスクトップPCについてもノートPCと同様、もしくはそれ以上に利用率が高いのではないかと推測される。

また、情報系の学生が携帯電話やスマートフォンではあまり利用していなかったゲームの利用率が、非情報系の学生の2倍近い点も興味深い。コンピュータゲームを楽しむ情報系の学生にとっては、携帯端末のゲームでは満足できないという事なのであろう。

・タブレットPCおよび電子辞書

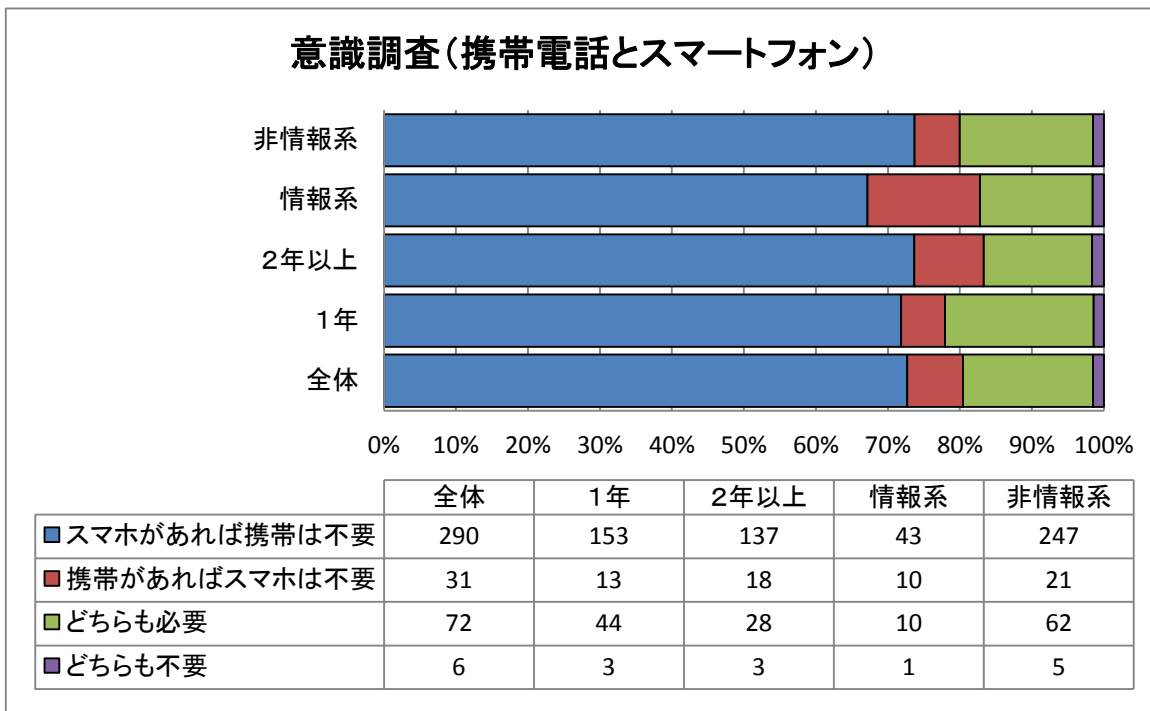
タブレットPCは所有の絶対数が少なく有意な情報を得られなかったため分析を割愛する。

電子辞書は使途が辞書に特化されており、また学生属性別の違いも見られないため分析を割愛する。

○類似する端末に対する意識調査

この調査は該当する端末を所有している、もしくは利用したことがある学生のみを対象とした。

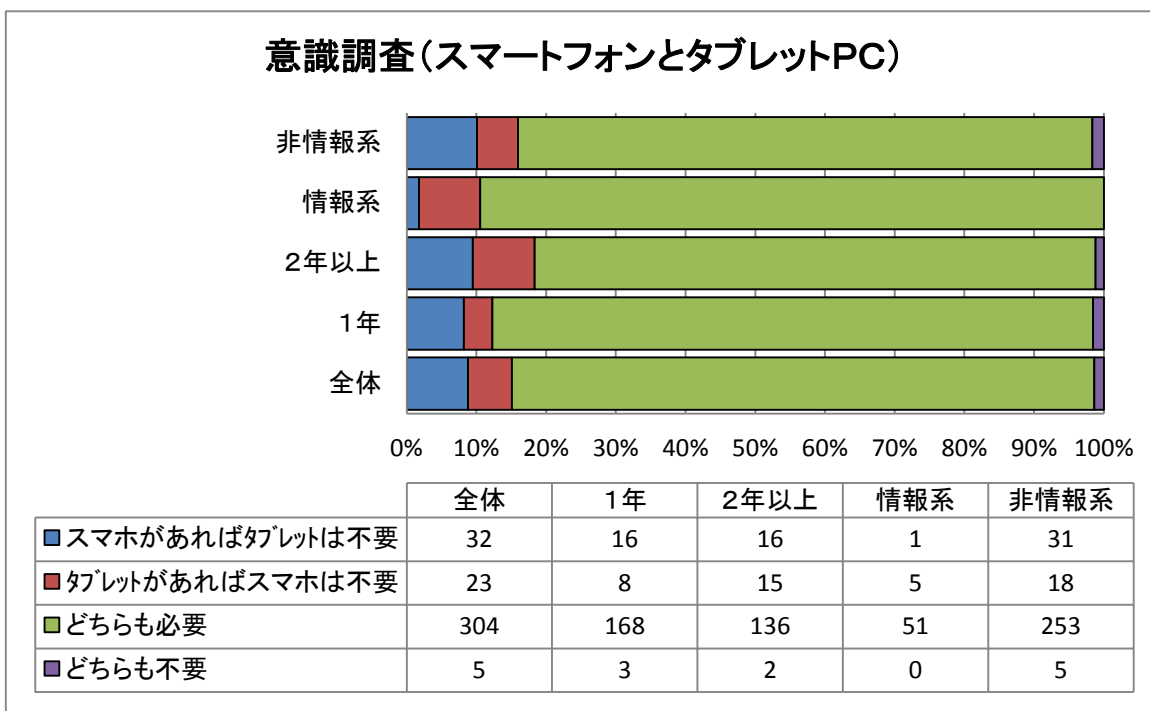
・携帯電話とスマートフォン



全体の 72.6%の学生が「スマートフォンがあれば携帯電話は不要である」と考えており、その逆はわずか 7.7%と 10 倍近い大差となった。これはどの学生属性にも共通の傾向であり、またどちらも必要と回答した学生は少数派 (18%) であるところから、全体的なトレンドとしては携帯電話かスマートフォンのどちらかだけを所有していれば良く、所有するのであればスマートフォンであるという考えが主流であることがわかる。

この結果と実際の所有比率を考慮すると、今後、携帯電話を所有している学生の多くがスマートフォンへ持ち替える可能性が高いと推測される。

・スマートフォンとタブレットPC

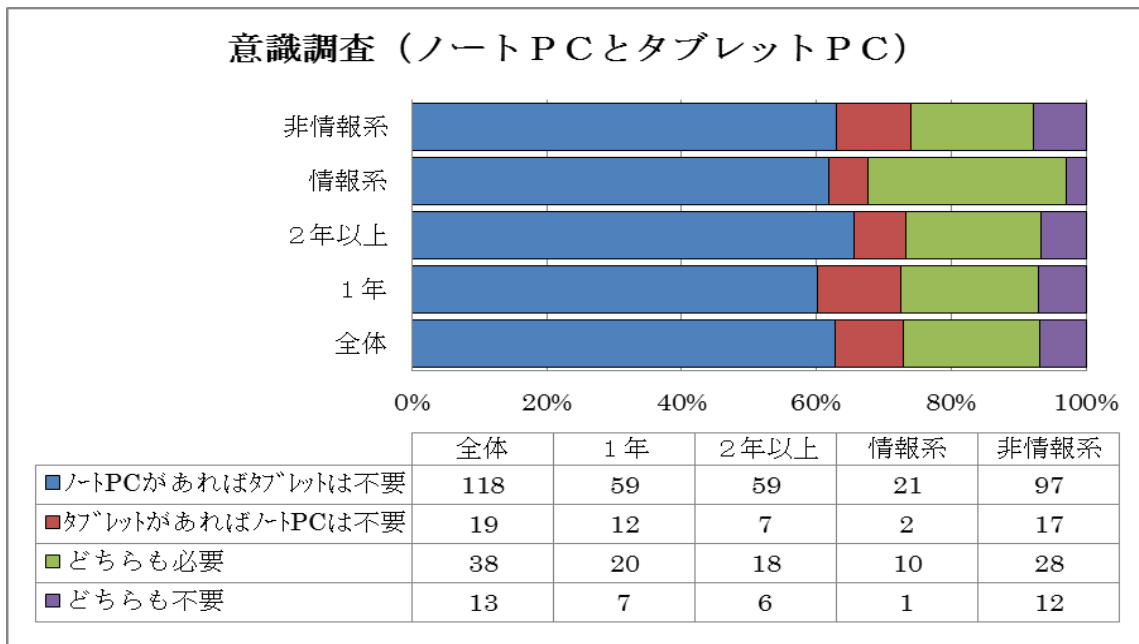


全体の 83.5%の学生が「スマートフォンとタブレットPCの両方が必要である」と考えており、「どちらかだけで良い」と考えている学生（計 15.1%）はごく少数である。

実装されている機能から考えれば、タブレットPCはスマートフォンの派生機種であると認識すべきであるが、学生の大多数は通話機能の有無やPCという言葉のイメージによってこのような意識を持っていると考えられる。この結果はタブレットPCが持つ機能への理解が不十分であることに起因するものであると推測される。

今後ビジネスシーンでタブレット PC が使用される機会が増えると考えられるため、大学でもタブレット PC についての知識と経験を得る機会を設ける必要があるのではないかと考えられる。

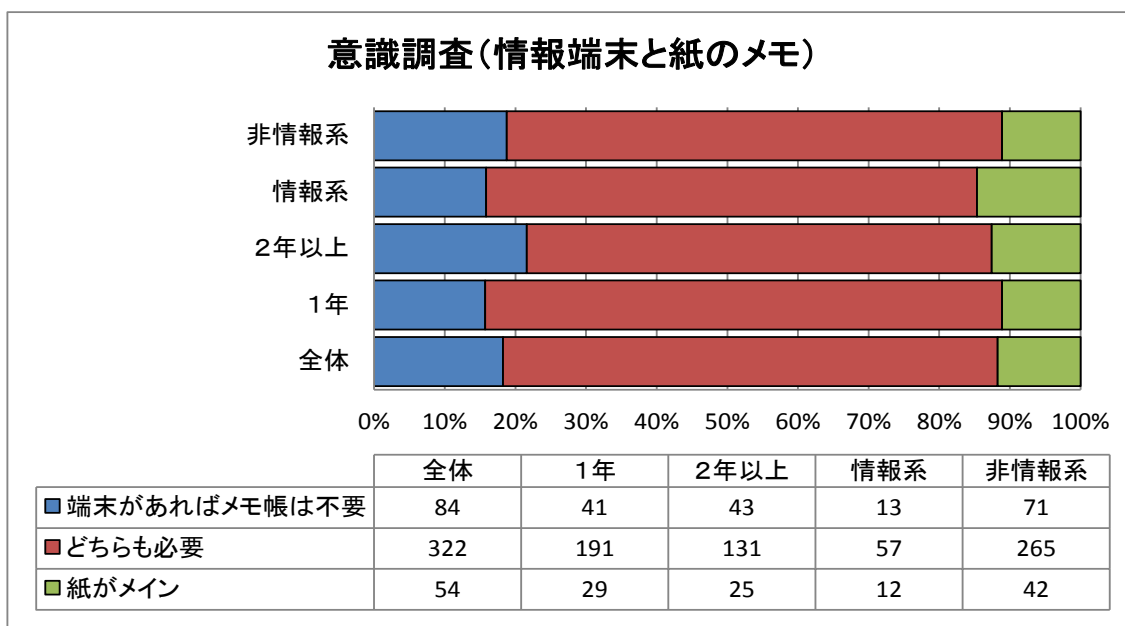
・タブレットPCとノートPC



全体の 72.8%の学生がタブレットPCとノートPCのどちらかがあれば事足りると考えており、それらの学生の 86.1%はノートPCを支持している。この事から学生にとってはタブレットPCとノートPCはほぼ同等の存在であり、ノートPCの方がより価値のある端末であるという意識を持っていることがわかる。

また、情報系以外の学生にはどちらも不要だと考えている学生が 6.9%存在している事も興味深い。デジタルネイティブのイメージである「コンピュータよりも携帯電話」の層がこの約 7%に該当するのであろうか。

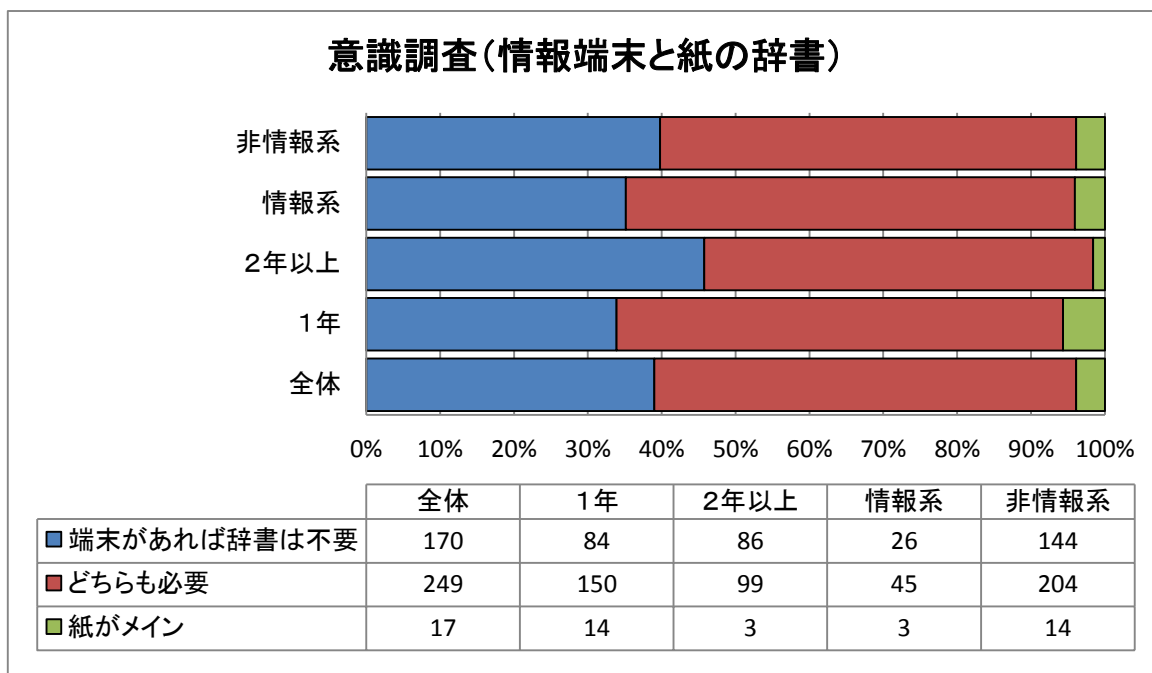
・情報端末と紙のメモ



全体の70.0%の学生が情報端末も紙のメモも両方が必要と回答しており、どちらかだけで良いと答えた学生を大きく上回っている。デジタル全盛の時代ではあるが、紙がメインと回答している学生も10%強存在しており、手帳などの紙のメモは根強い人気を持っていることが伺える。

これは紙のメモに機能的な優位性があるというよりも、携帯端末での入力は煩雑な場合が多く、またキーボードを装備した端末は日常的に持ち運べるサイズではない事から、手軽なメモとして利用するのには不向きである事を示しているのではないかと考えられる。

・情報端末と紙の辞書



携帯情報端末があれば紙の辞書は不要という学生が全体の57.1%を占め、携帯情報端末があれば紙の辞書が不要という学生の38.9%を大きく上回る結果となった。辞書の機能としては携帯端末(特に電子辞書)が紙の辞書よりも圧倒的に利便性が高いにもかかわらず両方が必要であると回答している学生が多い背景には、期末試験に情報端末を持ち込めないことが影響していると考えられる。そのため、大学という環境を離れてしまえば「どちらも必要」としている学生の多くも情報端末があれば事足りる、と考えるようになると推測される。

読み取り専用メディアである辞書は情報端末に劣るものと認識されているが、一方で読み書き兼用メディアである紙のメモについては情報端末と同等の存在として認識されている。この事からはデジタルネイティブであっても情報端末へ長文を入力する事には若干の煩雑さを感じているのではないかと推測される。